

世界の農業機械

「本誌特約」メジャー農業誌が伝える

マッセイ・ファーガソン MASSEY FERGUSON

マッセイ・ファーガソン社は、キャビンなしのトラクタ5400シリーズ（モデルは75psから100psまで）を発売。2柱折り畳み式転覆防止システムを搭載した仕様で、同社ではプラットフォーム型運転環境と呼んでいる。

この機種の騒音レベルは、オペレータの耳元でも86dBを超えることはなく、「EU諸国や他の国々の基準に適合している」（同社）という。

キャビンなしの設計だが、電動シャトル付前後進16段トランスミッションや、5tまたは6tの牽引力を持つ電動式リンケージコントロールを搭載するなど、他の5400シリーズと装備に差がない点を同社は強調する。

5400シリーズは、4商品すべてにパーキンス社製4サイクルエンジンが搭載されており、90ps、100psの型式にのみターボチャージャーを装備している。

（FW2/27-3/4週号より）

転覆防止システム搭載のキャビンなしトラクタ



キャビンなしのマッセイ・ファーガソン・5400シリーズ

リンクス・エンジニアリング LYNX ENGINEERING

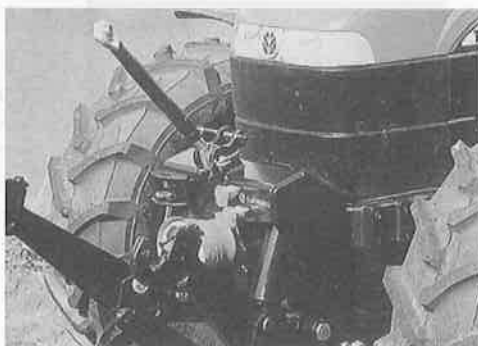
リンクス・エンジニアリング社は、ニューホランドのTDDトラクタ（73～97ps）用のPTOに装着可能なフロントリンケージの発売を開始した。

リンケージにはマルチバルブ・システムが搭載され、アームは単動式、複動式双方の浮揚モードで使える。サスペンションに装備されたアキュムレータ（蓄圧器）は、「トラクタと作業機に加わるショックを吸収し、安定した作業性と快適な運転を約束する」（同社）という。

1,000rpmが可能なPTOは、作業機のアタッチメントにあわせてクラッチ調節ができるよう電子的に連動している。標準型リンケージ単体の価格は2,170ポンド（約44万円）。PTO装着機種は1,960ポンド（約39万円）割増となっている。

（FW2/27-3/4週号より）

3本アーム式のフロントリンケージ



ニューホランドTDDトラクタ用のPTOに装着可能なフロントリンケージ

クローネ KRONE

ドイツの農機メーカー、クローネ社は、自走式モア・ビッグMと自走式フォレージハーベスタ・ビッグXの路面走行燃費を約25%削減したと発表した。

電子制御スロットル・コントロール装置を油圧トランスミッションと連動させ、最高速度が40kmに達するとエンジン回転数が自動的に1,650rpm以下になる制御メカニズムによるもの。通常は2,000rpm以下に制御されている機種が多い。

交差点や信号での停止時には、スロットルを全開せず自動閉鎖し、回転数を下げることで燃費向上を図っている。

（FW4/2-4/8週号より）

モア&フォレージハーベスタの走行燃費を改善



路面走行燃費25%削減に成功した、自走式モア・ビッグMと自走式フォレージハーベスタ・ビッグX（クローネ社）

オートコントローラ搭載のCVTトラクタ



初公開されたニューホランドのTVT190型トラクタ。挿入写真はキャビネット内部の詳細。運転者の右側に集められたコントロール装置に注目

ニューホランドは、年末に発売予定のCVT（無段階変速トランスミッション）ラインアップを初公開した。同社のTVTシリーズを拡充する商品で、生産は姉妹会社であるシュタイア社の豪州工場で行われる。

出力は137～192psまでの5モデル。トランスミッションには、時速0～50kmまでギア変速せずにギア比が変えられる設計を採用した。これは、2000年にケース社がCVXクラスではじめて導入したトランスミッションと同様で、油圧と機械を組み合わせた駆動装置が遊星ギアと一体となっている。設計をしたシュタイア社は、他社より機械的な駆動装置の比率を高めることで、「全体効率を向上させている」という。

搭載コンピュータによるアクセル制御も可能で、エンジン回転数やギア比の最適化も図ることができる。走行モードは「ドライブ、PTO、マニュアル」など、作業条件に適した切替えができる。

(FW4/2-8週号より)

英国でのニューホランドTVTシリーズの価格

- TVT135・137hp・£50,134 (約1,003万円)
- TVT145・147hp・£52,309 (約1,046万円)
- TVT155・156hp・£55,340 (約1,107万円)
- TVT170・171hp・£63,987 (約1,280万円)
- TVT190・192hp・£68,001 (約1,360万円)

リンクス・エンジニアリング LYNX ENGINEERING

作業幅6.7mのトラクタ前装式鎮圧機



リンクス・エンジニアリング社製の前装式鎮圧機。最大作業幅は6.7m

リンクス・エンジニアリング社は、同社最長となる作業幅6.7mのトラクタ前装式鎮圧機「ストリームライン6.7C」を初公開した。この鎮圧機は作業工程を減らす複合作業機として設計されたもので、トラクタ前面に装着し、耕うん後の畑で播種機と組み合わせて使用される（写真ではトラクタ後部にドリル播種機を装着している）。同社では「土壌の保水力確保に神経を使う農家にとって、この機種は非常に魅力的なはず」と話す。

2列のスプリングタインで砕した後、油圧制御の均平板で均し、その後を直径560mmのコイルバックが鎮圧していく。コイルバックには、付着した土の塊を取り除くスタークリーナが装備されている。主軸台のフレームは操作可能で、枕地で持ち上げたときに自動的に中心に戻る機能がある他、トラクタ前輪の車軸に荷重をかけずに、ステアリングの調整が作業中に行える。ユニットの重量は約2.5t、移動時には2.8mに畳める。スチームライン6.7Cの価格は、12,342ポンド（約250万円）。

(FW2/27-3/4週号より)

クラス CLAAS

ロールベアラ&角型ビッグベアラに新モデル



20mm長で作物を切断するファインカット装置が付いたクラスのクアンドラント2200角型ビッグベアラ

クラス社のローラント・ロールベアラとクアンドラント・角型ビッグベアラのシリーズに新しいモデルが1つずつ加わった。

ロールベアラの新モデル、240ロトフィードは、しっかりしたベール作りへの要望にこたえて、昨年に発売されたローラント240に、標準的な補助レーキではなくロトフィード・ロータと呼ばれる成形室へ送り出す装置を付けた機種。らせん構造のロトフィード・ロータは、作物をより確実に均等に送り出すことができる。価格は、18,740ポンド（約375万円）。

クアンドラント・角型ビッグベアラ・シリーズの新しい2200型モデルには、ファインカット・ロータが装備されている。このロータは、基本的には同社のロトカット切断装置と同じだが、切断刃の数が増えて49本となっている。切断長は20mmで、「鶏舎の敷きワラや牛舎の寝床に適したベールができる」（同社）。価格は、83,000ポンド（約1,665万円）。

(FW3/19-25週号より)

資材トレンド

このコーナーでは、海外のメジャー農業誌に紹介されている農業機械・資材情報を中心に、農業関係業界の世界的な流れをお伝えしていきます。

F W : F A R M E R S W E E K L Y の 略